
いっしょに暮らそっ！（承）

神崎颯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつしよに暮らそっ！（承）

【Nコード】

N6500B

【作者名】

神崎颯

【あらすじ】

この春から大学一年生になる虎次は兄の竜一に新居を燃やされた！巡り巡って兄の親友である翼の部屋に住むことになったのだが、翼には大きな秘密があつて……。グループ小説第十一弾、起承転結の承作品。先に影之兔チャモさんの『いつしよに暮らそっ（起）』を読んでください。

翼さんとの同棲生活も早3日、大学にも無事入学して、特に火事が起きる等の問題は無く、とても平和に過ごしていた。

ただ、小さな問題は良くある。

そりゃ異性と同棲してるんだから意識せざるをえない。

「翼さんが入った風呂……」

どうも自分が変態に見えてきた。これはまずい。

「だあ！ 考えるな俺！」

思春期の学生か俺は！

考えれば考える程、多分俺は顔が赤くなっていくだろう。

しかし、彼女でもない人との同棲なんてやはりおかしい。世の中の秩序が乱れてしまう。

いや、俺は翼さんに一目惚れしたけど、翼さんはクソ兄貴が好きなわけで……ってあれ？

なんか俺があたかもバカ兄貴より劣ってるように感じるな。おかしい。

「よし、俺は翼さんに惚れられるような人間になろう！ 翼さんからゴミ兄貴に向けられた熱い眼差しを俺の方に向かせてやる！」
風呂の中で立ち上がり、俺はそう決意した。

次の日、まだあまり慣れていない大学へ。
ハッキリ言ってつまらない授業を受けた。なんなんだあの授業は。

退屈すぎる。

そして授業終了後、目的の人物を探し練り歩く。

見つけた。

「翼さん」

20メートルほど離れた位置に1人にいる翼さんを発見した俺は、大きな声で呼んだ。

それに気付いた翼さんは手を振り返してきた。

そして俺は翼さんのもとへと駆け寄っていった。

「こんにちは翼さん」

「やあ虎次君」

しっかりと男物の服を着込んでる翼さんはやはり中性的でジャニーズ系に見える。かつこいい、というのだろうか。

ここで作戦実行！

奢ることで男らしさと金銭的余裕があることをアピールしてみる。上手くいけば好感度アップ！

「もうお昼ですけどいっしょにご飯でも食べませんか？ 奢りますよ」

「え、ホント？ わーありがと。 ちょっとお金なくて困って

たんだよねー」

よし、作戦成功！

ついでに翼さんと話す機会ゲット！

翼さんといっしょに大学内にあるカフェテリアへ。

お昼時ということではなかなか人がいる。

「じゃあ何食べます？」

「カレー！」

「男っぽいですね」

「……まあ『男』だから」

……しまった。

大学内では男と言う風にしなければならないのか。不注意だった。わかりましたよ翼さん。

「カレーですね、わかりました。じゃあ買ってきますんで適当に座っててください」

翼さんに座つとくように言い、俺はカレーと俺の分の昼飯を買いに行った。

「よー弟、俺にも奢ってくれないかね？」

どこからともなくクソ兄貴が現れた。

「やなこった」

「翼には奢ってんじやんかよー。実兄の俺にも奢れよ」

「翼さんには居候させていただいてるんだから当然だろ」

「翼紹介したの俺じゃん」

「放火したのお前じゃん！」

「放火とはまた人聞きの悪いことを」

ああ、兄貴が邪魔だ。

このままだと翼さんと色々話そうと思ってたのに兄貴の介入で断念しなければならぬではないか。それはなんとしても阻止せねば。

「とにかく兄貴、邪魔だからどっかいってろ」

「ああ、俺は翼に用があるんだよ」

ジーザス！

なんでこんなときに限って兄貴が暇じゃないんだ！

仕方が無く兄貴と一緒に翼さんの座ってる場所へ行く。

「よー翼」

「あ、竜一」

なんか翼さんの顔が凄く笑ってるように見える。畜生、何故アホ兄貴なんかに。

「ほれ、この前借りてたお前のレポート返すぜ」

「あ、ありがとう」

……兄貴も大学生らしいことしてたんだなあ。奇跡だ。

「翼さん、カレーどうぞ」

「あ、ありがとう」

そして俺も自分のために買ったそばを食べる。うん、美味。

「翼、うちの出来の悪い弟はお前に迷惑かけてないか？」

出来悪いのはお前だろカス兄貴。

「うっん、全然。むしろ家事とか色々手伝ってくれて助かってる感じ」

「それを聞いて安心だ」

兄貴と話してる時の翼さんの顔はどこかやはり恋する乙女のように、輝いていた。

ああ、翼さんは本気で兄貴が好きなんだなあ。

俺のことを好きになってくれることは……ないのだろうか。

そんなことを考えてしまった。

（後書き）

…正直な話あまり上手く出来た気がしませんが、きっと後の方が何とかしてくれます。

起承転結を個別で書く企画の、この作品は『承』にあたります。後は『転』と『結』におまかせです。

順番は、

（起）影之兔チャモさん↓

（承）神崎颯↓

（転）月野真昼さん↓

（結）春野天使さん
です。

続きは月野さんのところで！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6500b/>

いっしょに暮らそっ！（承）

2011年1月4日03時17分発行